

みなみじゅうじせい



【学校教育目標】笑顔いっぱい

～やる気・やさしさ・根気強さのある みなみっ子の育成を図る～
長崎市立南長崎小学校 校長 宇土 衛

被爆体験講話

6月5日(木)に、永井隆博士のお孫さんにあたる永井徳三郎さんをお招きし、被爆体験講話を実施しました。永井博士と云えば、ご自分が被爆しながらも、医療活動に邁進し、多くの人たちを救った医療従事者で、長崎で知らない人はいないのではないのでしょうか。また、体の不調で寝たきりになった後は、執筆活動に勤しみ「長崎の鐘」や「この子を残して」といった大ベストセラーを生み出したことでも有名です。

今年度は、対象を3年生～6年生とし、より詳しい内容のお話を伺うことができました。特に、徳三郎さんが永井博士のお孫さんにあたるということで、お父様から聞いた話やご家族の話もあり、当時の様子や人々の生活についてまで、分かりやすくも真に迫る内容でした。

私が拝聴して頭に浮かんだのは、一貫してポジティブな永井隆博士でした。「余命3年しかない」ではなく「3年あるなら、何をしよう!」と前向きにとらえる姿に感銘を受けました。

徳三郎さんへの質問タイムでは、数名の子どもたちが素直な疑問を投げかける姿が見られました。また、児童代表お礼の挨拶は、事前に準備した内容ではなく、講話を聞いた感想や平和への思いを6年生の川原心さんが、しっかりと述べることができました。

今年は長崎に原爆が落とされてから80年です。今後も平和学習を学校全体で進めていきます。

